

佐用町支援プロジェクト報告書

－ 平成21年台風9号による災害を受けた被災地の復興支援 －



平成21年11月
みえ災害ボランティア支援センター

目 次

1. みえ災害ボランティア支援センターによる支援の経緯	1
2. 平成21年台風9号による佐用町の被害の状況	2
(1) 人的被害	
(2) 物的被害	
(3) 被災地域	
3. 支援活動	3
(1) 支援の流れ	
(2) 当日スケジュール	
(3) 支援物資の種類と提供者	
(4) 活動概要	
(5) 幹事会メンバー	
(6) 当日スタッフ	
(7) 佐用町支援プロジェクト参加者の声	
4. 資料	11
(1) 復興支援バザーチラシ	
みえ災害ボランティア支援センターについて	12
(1) みえ災害ボランティア支援センターとは	
(2) 協力団体募集チラシ	

1. みえ災害ボランティア支援センターによる支援の経緯

平成 21 年は伊勢湾台風から 50 年という節目の年にあたります。上陸したいくつかの台風は、各地に甚大な被害をもたらしました。

当初、台風 9 号により、被害を受けた被災地は遠隔地ということで、現地の災害ボランティアセンターの立ち上がりも早く、順調に復旧作業が進む様子を遠くから見守っていました。

8 月中旬、兵庫県佐用町を中心にまだまだ復興への支援が必要との現地に入ったボランティアからの報告を受け、三重県からの支援を検討するために、8 月 19 日に「災害ボランティア活動の支援に関する協定」を結ぶ 6 団体がみえ災害ボランティア支援センター臨時会を開催し、支援の可否と内容について検討を行うことになりました。

ボランティアに関わる支援については、ボランティアバスを運行して復旧活動にあたるなどの支援は、津市から兵庫県佐用町や岡山県美作市までの往復 8 時間の行程を考えた場合、難しいという結論に至りました。

兵庫県佐用町では、泥出しや後片付けで地域の被災者が心身ともに疲労困憊の状態にあり、また、死者数も多く、被災地域の空気が非常に重苦しいという現地に入った支援者からの報告もあったことから、少しでも被災者の気持ちが明るくなるような支援ができないかと、遠隔地からできる支援の可能性を探りました。

その結果、被災者の気持ちを和らげることができればと考え、三重県ならではのおいしいものを届けるプロジェクトを立ち上げるという、支援の方針を決定しました。

そして、現地と調整を進める中、井村屋製菓（株）と（株）おやつカンパニーから製品ご提供のお申し出をいただき、佐用町支援プロジェクトが始動しました。

2. 平成21年台風9号による佐用町の被害の状況

(1) 被災地域

佐用地区、上月地区、南光地区、三日月地区



(2) 人的被害

死者 18 名、行方不明者 2 名、負傷者 1 名

(3) 物的被害 (10 月 8 日時点)

全壊	136 棟
大規模半壊	259 棟
半壊	481 棟
床上浸水	160 棟
合計	1,036 棟

3. 支援活動

(1) 支援の流れ

8月 9日 ～10日	台風9号により、兵庫県佐用町で豪雨水害発生
8月13日	佐用町災害ボランティアセンター開設
8月17日	県外ボランティア受入開始
8月19日	みえ災害ボランティア支援センター臨時会開催
8月20日 ～ 9月17日	佐用町社会福祉協議会と調整 (8月29日 現地訪問、打ち合わせ)
8月20日 ～10月10日	三重県内情報発信と物品寄付者募集、準備
8月30日	佐用町災害ボランティアセンター閉鎖
8月31日～	佐用町きらめき復興支援センター開設
10月11日	佐用町きらめき復興支援センター主催「復興支援バザー」に参加

(2) 当日スケジュール

05:00	佐用町支援伊勢隊集合
06:00	三重県庁物資倉庫(野末倉庫)前集合
06:05	物資積み込み開始
06:19	佐用町支援隊出発 (日赤三重県支部トラック、乗用車2台)
07:00	土山サービスエリア (1名合流)
10:15	佐用町到着 受付 会場設営
10:45	魚釣りゲームによる無償お菓子配布開始
11:45	魚釣りゲームによる無償お菓子配布終了
12:00	会場撤収 昼食
13:30	被災地の復旧状況視察
16:00	佐用町出発
18:15	土山サービスエリア到着 (1名離脱)
19:15	三重県庁到着 解散
20:30	伊勢隊到着 解散

(3) 支援物資の種類と提供者

(敬称省略)

企業名／個人名	提供物品
株式会社おやつカンパニー	ミニカップラーメン (64 個入り×28 箱) 1792 個
井村屋製菓株式会社	「えいようかん」2000 個 (110g/1 個)
有限会社二軒茶屋餅角屋本店	エスサイダー 48 本
有限会社ダイワ	伊勢うどん 10 個、あおさ 20 袋
白鷹三宅酒店	白鷹 300ml 6 本、伊勢萬金飴 2 袋、宇治 橋渡始記念木製キーホルダー 50 個
自衛隊三重地方協力本部 伊勢地域事務所	特製ボールペン 50 本
明和町商工会	伊勢ひじき 100 袋
南伊勢町商工会青年部	南伊勢ブランド鯉生節 20 本
鳥羽磯部漁業協同組合	味付け海苔 5 個、焼き海苔 5 個、青さ のり佃煮 5 個
株式会社総本家新之助貝新	浅利しぐれ煮 5 袋、しじみ味噌汁 5 袋、 あさりめしの素 10 箱、かやく豆 5 袋、 とろり手羽 (ピリ辛味) 5 袋
浜口一利	味付け海苔 10 個、塩蔵わかめ 5 袋
伊佐彰代	自衛隊特製乾パン 30 缶
佐藤真弓	松阪牛チップス 1 袋、松阪牛肉味噌 1 箱、松阪牛ストラップ 1 個



(株)おやつカンパニー様より、ミニカップラーメン寄贈

(4) 活動概要

台風9号豪雨災害で被災を受けた方の生活支援を目的として佐用町社会福祉協議会きらめき復興支援センターが開催する復興支援バザーに参加しました。

【日 時】平成21年10月11日(日)
10時から15時まで

【場 所】南光生きがいドーム
(兵庫県佐用町東徳久1946番地)

【来場者数】296世帯722人
(※午前中〔被災世帯〕のみ)

【準 備】

当日まで現地と調整を重ねながら、被災された方々がひと時楽しんでいただけるよう、防災ボランティアコーディネーターらが工夫し、手作りで作成した「魚つりゲーム」の景品として、企業、個人からご提供いただいた三重県の物産品をお配りできるよう準備を進めました。



南光生きがいドーム

【活 動】

10月11日の復興支援バザー当日は、早朝6時に15名が県庁に集合し、10分程度で荷積みを終え、日赤三重県支部のトラックで佐用町に物資を運びました。

会場では、10時から被災者の方を対象にした家電販売が始まり、みえ災害ボランティア支援センターは、炊き出しの時間に合わせ、11時からお菓子配布を行う予定でした。



荷積み完了



にぎわう会場

スタッフが到着し、お菓子や食品を並べ、手作りののぼりを掲げて準備を始めると、次々に「それ貰えるの?」と尋ねてくださるので、あまりお待たせしないように、定刻よりも早くオープンすることになりました。

「魚釣りゲーム」は常時10～15名の方が並び、用意した物産が予定より3時間も早くなくなるほど大盛況でした。

お子さん連れのご家族はもちろん、ご高齢の方も「大人でもいいの?」と嬉しそうに釣り糸を受け取り、三重県の特産品を眺めながら、はりきって釣っていただき、物産を手渡されて笑顔で帰っていかれました。



魚釣りゲーム



お菓子を抱えて帰る子どもたち

三重から物資を運んだスタッフも、佐用町の皆さんの笑顔を拝見し、手渡される物産に一喜一憂してお声を発せられるその場の楽しげな様子を眺めながら、ひと時三重の物産を囲み、楽しい時間を過ごしていただけたことに対して、お届けできてよかったと嬉しい気持ちになりました。

佐用町の皆さんのお気持ちが少しでもホッとできればと考えたボランティアたちと、その思いに応え、扱いに気を遣う“食品”を無償で必要数揃えてくださった企業のお志が、共に合わさって紡ぎ出した時間と笑顔でした。

この場をお借りして、ご理解・ご協力くださいました皆様に重ねてお礼申し上げます。有り難うございました。



(5) 幹事会メンバー

(敬称省略 50音順)

氏名	団体名
出丸 朝代	特定非営利活動法人みえNPOセンター
上野 敏彦	三重県健康福祉部社会福祉室
臼井 健家	三重県ボランティア連絡協議会
川端 賢一	三重県生活・文化部男女共同参画・NPO室NPOグループ
中嶋 宏行	三重県防災危機管理部防災対策室
中村 祐哉	三重県防災危機管理部防災対策室
森田 勝人	日本赤十字社三重県支部
橋川 健祐	社会福祉法人三重県社会福祉協議会
古川 明郎	三重県生活・文化部男女共同参画・NPO室NPOグループ
山崎 和彦	社会福祉法人三重県社会福祉協議会
山本 康史	特定非営利活動法人みえ防災市民会議

(6) 当日スタッフ

(敬称省略 50音順)

氏名	団体名	役割
伊藤 忠史	日赤三重県支部	運搬(トラック)／品出し／箱片付け
加藤 ともよ	みえ防災市民会議	景品選択
加藤 直人	みえ防災市民会議	運搬／撮影／呼び込み
加藤 元	みえ防災市民会議	景品手渡し
亀山 裕美子	みえ防災市民会議	客捌き／呼び込み
栢原 良	日赤三重県支部	運搬(トラック)／景品袋詰め／箱片付け
佐藤 真弓	みえ防災市民会議	「魚」準備(景品記入)
新谷 琴江	みえ防災市民会議	景品手渡し
中嶋 宏行	三重県防災対策室	運搬／全般、追加買出し／客捌き
西川 泰弘	みえ防災市民会議	景品袋詰め
水谷 慎吾	みえ防災市民会議	呼び込み／景品手渡し
森口留美子	みえ防災市民会議	景品選択
森田 勝人	日赤三重県支部	運搬(トラック)／景品袋詰め
山畑 直子	みえ防災市民会議	「魚」準備(景品記入)
山本 康史	みえ防災市民会議	全般、追加買出し

(7) 佐用町支援プロジェクト参加者の声

特定非営利活動法人みえ防災市民会議議長 山本康史

8月16日に被災した方が自宅の近くで自ら命を絶った、というニュースが流れて頭を殴られたような衝撃を受け、どんな状況なのかと現地を訪れました。

現地は、床上浸水という言葉では想像できない被害を受けていました。しかも5年前の傷をやっと癒そうとしていた所に再び襲いかかった災害でした。

私もいくつかの被災地で支援活動に参加させていただいた経験がありますが、このように重苦しい雰囲気被災地は初めてでした。

少しでもこの空気を和らげるお手伝いできればと思い、みなさんのご協力のおかげでこの支援活動に繋がりました。

被災された方々は途切れなくブースに立ち寄り、笑顔で三重からの心のこもった品々を持ち帰ってくれました。その品々が被災された方々の心を少しでも「ほっこり」させる事ができたかな、と信じています。

特定非営利活動法人みえ防災市民会議 加藤 元

被災地への支援との事で参加させていただきました。

豪雨災害から2ヶ月過ぎたがまだ手付かずの現場も少なくないと聞く中、いかに被災地の方々と接すればいいのか悩みつつ参加しました。

会場では多くの方々に笑顔で参加していただき、ならば楽しんでいただこうと日頃のイベント感覚で大きな声で接し、少しでも喜んでいただければ、と願いました。

一方、町内各所では手付かずの被災家屋や崩れたままの堤防などが目立ち、川沿いには流木や流されてきた岩石などが散乱し、豪雨の爪痕が生々しく残されていました。

自然災害とはどこであっても起こりうるものだと改めて感じさせられました。

特定非営利活動法人みえ防災市民会議

山畑直子

『百聞は一見にしかず』・・・被災経験も、被災地に赴いた経験もない私には、この言葉をこれほど痛感したのは今回が初めてかもしれません。

打ち合わせする余裕もなく始まった魚釣りゲーム。それでもメンバーの自然で、そして迅速な動きは素晴らしかった！予定時間を大幅に残して終了してしまったけれど、被災現場を回り色々感じる事ができました。

たくさんの人の思いが、たくさんの人の手を通じて集まり、今回の佐用町支援プロジェクトが実行されました。三重の人々の思いは、きっと佐用町の方々に届いたはず。

このプロジェクトに参加できたことに感謝。もちろん、送り出してくれた家族にも。

特定非営利活動法人みえ防災市民会議

森口留美子

兵庫県佐用町に向けて、三重県から被災者の気持ちを明るくできるような支援をしよう。ということからはじまった今回の支援活動。

打ち合わせを進めるうちに参加メンバーのいろいろなアイデアでどんどん膨らんで、たくさんの三重県の味の品が揃いました。「ひとりではできないけど、なにかしたい。」といういろいろな人の気持ちが集まった結果だと思います。

そして、活動を終えた今、自分達の気持ちがきちんと届いたのか、そして、この活動は本当に現地のためになっていたのか、ということは誰にもわからない、答えのないものだと感じています。

このことを忘れることなく、今後の活動につなげていきたいと思いました。

特定非営利活動法人みえ防災市民会議

西川泰弘

帰宅後、メーリングリストに載せた駄文を引用したい。「駐車場に入るなり、ストーブを抱えて小走りに帰り去る人が・・・会場に急ごう！ テニスのセンターコートほどもある屋内運動場に人が溢れている。15人全員+現地スタッフで日赤トラックから物資を下ろし、並べている間にも人が集まり出す。役割を打ち合わせるヒマもなく、そのまま人だかりに飲み込まれようとする（常時10～15人が群れてくる）。魚釣りを広げて、のぼりを立てて、景品を飾って・・・もう景品に手が伸びてくる（ゲームしてからね：苦笑）そんな中でも、最初の数分で自然に持ち場と役割が決まっていく。見事である。」
こんな心強い仲間たちと、この場に居合わせる幸せを感じた。

特定非営利活動法人みえ防災市民会議事務局 亀山裕美子

今回の「佐用町支援プロジェクト」では、被災された方々に、家族や知人と屈託なく「楽しむ時間」、賞品をもらった「嬉しい気持ち」、獲得した賞品について「語る時間」、食べ物を囲んで「くつろぐ時間」など、企業の皆様のご協力を得て、お金では買えない **priceless** なものをご提供できたのではないかと思います。

それは、これからも継続して行われる佐用町の復興のプロセスにおいて、微々たるものかと思えます。もっとできることがあったかもしれません。

しかし、例えわずかであったとしても、被災された方々が日常の憂慮から一時離れて楽しんでくださったことは、わたし達にとっても嬉しいことでした。そのひと時が何らかの形でこれからの佐用町の皆様の力につながっていくことを願っています。

被災された皆様の力になりたいというわたし達の思いを受け止め、あたたかな場を創りだしてくださった佐用町社会福祉協議会の皆様に感謝いたします。

4. 資料

(1) 復興支援バザーチラシ

きらめき復興支援センター

復興支援バザー

この度の台風9号豪雨災害により被災を受けた方の生活支援として、冬場を迎えるにあたり生活上必要と思われる小型家電や冬物衣類、寝具、調理器具等を安価で提供いたします。
このバザーで集まった収益金は、被災者支援のための義援金として寄付します。

10/11

(日)

場 所：南光生きがいドーム
(佐用町東徳久1946番地)

内 容：バザーと炊き出し

バザー	10:00～12:00ま
	※被災者対象
	12:30～15:00ま
	※一般対象

主なバザー品

- ・ 小型家電
(暖房器具他)
- ・ 冬物衣類
(セーター、子ども服等)
- ・ 寝 具
(こたつ布団、毛布等)
- ・ 調理器具
(鍋、フライパン等)

炊き出し内容

- ・ お菓子無料配布
(井村屋・おやつかパニー)
※各先着1,000名
- ・ その他
いろいろな炊き出しがあります

※食器は無料で配ります

無料だよ!!

★みなさんお誘い合わせのうえご来場ください★

主催：佐用町社協きらめき復興支援センター

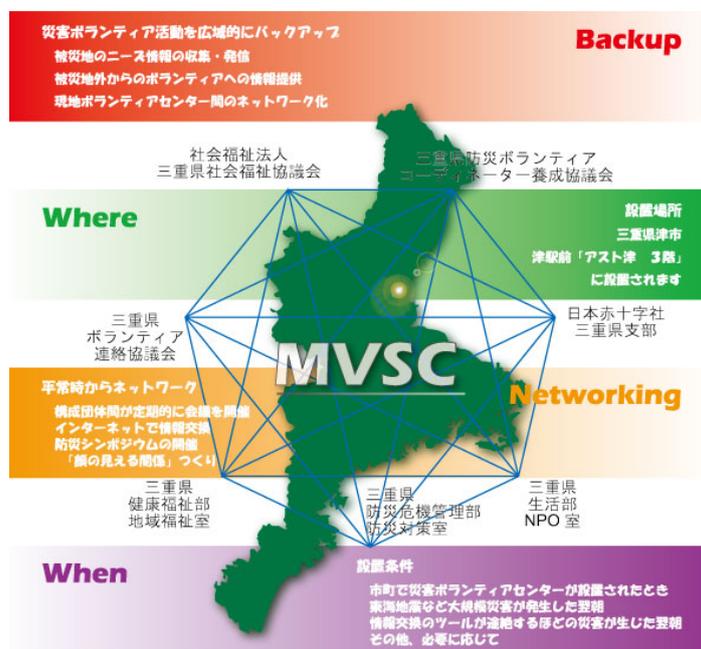
みえ災害ボランティア支援センターについて

(1) みえ災害ボランティア支援センターとは

みえ災害ボランティア支援センターは、県内外で大きな災害が起きたときに三重県津市アスト津3階「みえ県民交流センター」内に設置され、被災地のニーズ情報の収集・発信、被災地外からのボランティアへの情報提供、現地ボランティアセンター間のネットワーク化など、災害ボランティア活動の広域的なバックアップを行います。

みえ防災市民会議、みえNPOセンター、三重県ボランティア連絡協議会、日本赤十字社三重県支部、三重県社会福祉協議会、三重県が幹事団体となり、定期的な会議の開催、インターネットでの情報交換、防災シンポジウムの開催など、構成団体間では平常時から連携強化に関する取り組みを行っており、災害時にはすみやかに支援センターを設置し、早急な被災地の復旧、復興のボランティア活動の支援を行えるようなネットワークづくりに努めています。

地震！津波！！洪水！！大きな災害が起こったとき みえ災害ボランティア支援センター (MVSC) が設置されます！！



Homepage <http://www.v-bosaimie.jp/mvic/>
E-mail center@v-bosaimie.jp

(2) みえ災害ボランティア支援センター「協力団体」募集チラシ

MVSC

Mie disaster Volunteer
Support Center

「協力団体」募集!!

みえ災害ボランティア支援センターの活動にご賛同していただける「協力団体」を募集しています。

みえ災害ボランティア支援センター

県内で災害が発生した場合

広域センターとして県内各地の現地ボランティアセンターを支援する為各種団体との連携や情報発信、ボランティア募集・派遣を行う

県外で災害が発生した場合

被災地のボランティアセンターと連絡を取り合っ、三重県から被災地を支援するボランティアへの情報提供や交通手段の提供(ボランティア)などを行う

幹事団体

NPO法人みえ防災市民会議
NPO法人みえNPOセンター
三重県ボランティア連絡協議会
社会福祉法人三重県社会福祉協議会
日本赤十字社三重県支部
三重県
(防災危機管理部防災対策室
生活・文化部男女共同参画NPO室
健康福祉部社会福祉室)

災害時の設置場所

アスト津3階
みえ県民交流センター内

協力団体受付先

NPO法人みえ防災市民会議
516-0005 伊勢市竹ヶ鼻町170-1
サンヨーバルブ(株)内
tel 080-3669-9820
fax 050-7000-6029
e-mail center@v-bosaimie.jp

協力団体とは...

「平常時から相互に情報交換を行うとともに、災害時にはその他のボランティア関係組織等及び県と連携しながら、自ら役割を見つけて行動する団体」

つまり... 三重県内の

防災・災害救援に関心がある、活動している団体のことです。

ボランティア・NPO団体や自治会、婦人会などの地域組織、企業、学校やPTA、行政など、任意・法人格は問いません。

協力団体になると...

- 三重県内の防災の話題について話し合えるメーリングリストに参加できます。
- 県総合防災訓練や防災ボランティア研修会の参加案内が届きます。
- 災害発生時に開催されるみえ災害ボランティア支援センターの「臨時会」開催の案内が届きます。
- 災害時にはお互いの活動の情報を共有しながら、各団体で自主的に被災地の支援活動を行います。

「協力団体」に登録するには...

みえ災害ボランティア支援センターHPで、「協力団体登録」をクリックし、所定の内容を入力・送信するか、所定の登録用紙に記入して協力団体受付に郵送、またはFAXしてください。

幹事団体の会議にて活動内容を確認の上、登録させていただきます。

いただいた団体情報は適正に管理し、みえ災害ボランティア支援センターの活動以外には無断使用しません。

みえ災害ボランティア支援センターHP

<http://www.v-bosaimie.jp/mvic/>

佐用町支援プロジェクト報告書

平成 21 年（2009 年）11 月発行

みえ災害ボランティア支援センター

<http://www.v-bosaimie.jp/mvic/>

（事務局） 三重県生活・文化部男女共同参画・

NPO室 NPOグループ

〒514-0009 津市羽所町 700 番地 アスト津 3 階

T E L 059-222-5981 F A X 059-222-5984

E-mail seiknpo@pref.mie.jp

<http://www.pref.mie.jp/NPO/>